

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成 19 年 10 月 25 日 (2007.10.25)

【公表番号】特表 2004-533551 (P2004-533551A)

【公表日】平成 16 年 11 月 4 日 (2004.11.4)

【年通号数】公開・登録公報 2004-043

【出願番号】特願 2002-587681 (P2002-587681)

【国際特許分類】

D 0 1 F 9/00 (2006.01)

D 0 1 F 6/92 (2006.01)

D 0 4 H 1/42 (2006.01)

【F I】

D 0 1 F 9/00 Z B P Z

D 0 1 F 6/92 3 0 7 Z

D 0 4 H 1/42 P

D 0 4 H 1/42 X

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 19 年 9 月 7 日 (2007.9.7)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

a . 非構造化されたデンブン、

b . 1 0 , 0 0 0 g / m o l ~ 4 0 0 , 0 0 0 g / m o l の分子量を有する生分解性熱可塑性ポリマー、及び

c . 可塑剤

を含む組成物を溶融紡糸することにより製造され、該組成物中が 1 % 未満の遊離水を有することを特徴とする、環境で分解可能な高度に細長化された繊維。

【請求項 2】

a . 5 % ~ 8 0 % の非構造化されたデンブン、

b . 1 0 , 0 0 0 g / m o l ~ 4 0 0 , 0 0 0 g / m o l の分子量を有する、1 5 % ~ 9 0 % の生分解性熱可塑性ポリマー、及び

c . 2 % ~ 7 0 % の可塑剤

を含む組成物を溶融紡糸することにより製造される、環境で分解可能な高度に細長化された繊維であって、

該組成物中が 1 % 未満の遊離水を有し、および

前記環境で分解可能な高度に細長化された繊維中のデンブンマトリックス内で熱可塑性ポリマー微細繊維が形成されることを特徴とする環境で分解可能な高度に細長化された繊維。

【請求項 3】

2 以上 の生分解性で熱可塑性のポリマーが存在することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の高度に細長化された繊維。

【請求項 4】

前記生分解性で熱可塑性のポリマーが、1 6 0 ~ 1 7 5 の融解温度を有する結晶可能なポリ乳酸のホモポリマー又はコポリマーであることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記

載の高度に細長化された繊維。

【請求項 5】

第一の生分解性で熱可塑性のポリマーが、 $160 \sim 175$ の融解温度を有する結晶可能なポリ乳酸のホモポリマー又はコポリマーであり、第二の生分解性で熱可塑性のポリマーが、前記第一のポリ乳酸より低い結晶化度及び融解温度を有する別のポリ乳酸であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の高度に細長化された繊維。

【請求項 6】

前記繊維が $200 \mu\text{m}$ 未満の直径を有することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の高度に細長化された繊維。

【請求項 7】

請求項 1 又は 2 に記載の高度に細長化された繊維を含むことを特徴とする不織布ウェブ。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の高度に細長化された繊維が、他の合成繊維又は天然繊維とブレンドされ、互いに結合されることを特徴とする不織布ウェブ。

【請求項 9】

非構造化されたデンプン、 $10,000 \text{ g/mol} \sim 400,000 \text{ g/mol}$ の分子量を有する生分解性熱可塑性ポリマー、及び可塑剤を含む環境で分解可能な高度に細長化された繊維を含むことを特徴とする不織布ウェブ。

【請求項 10】

請求項 7 又は 9 に記載の不織布ウェブを含むことを特徴とする使い捨て物品。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0034

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0034】

使用される具体的なポリマー、プロセス、及び繊維の最終用途によっては、2 以上のポリマーが望ましい場合がある。2 つの異なるポリマーを使用するのが好ましい。例えば、約 $160 \sim 175$ の融点を有する結晶可能なポリ乳酸が使用される場合、他のポリ乳酸よりも低い融点及び低い結晶化度及び / 又はより高いコポリマー濃度を有する第 2 のポリ乳酸を使用してもよい。あるいは、脂肪族芳香族ポリエステルを結晶可能なポリ乳酸とともに使用してもよい。2 つのポリマーが望ましい場合、ポリマーは化学的立体特異性について、又は分子量についてだけ異なる必要がある。